

講義概要

SYLLABUS

2022年度

鍼灸科

2

年次

【 専門基礎分野 】

生理学Ⅱ

運動学

衛生学Ⅱ

リハビリテーション医学Ⅰ

病理学Ⅰ

臨床医学総論

臨床医学各論Ⅰ

【 専門分野 】

鍼灸理論Ⅰ

経絡経穴各論

はきの適応の判断

(病態生理学も含む)

東洋医学臨床論Ⅰ

東洋医学はりきゅう実技Ⅰ

現代医学はりきゅう実技Ⅰ

はりきゅう応用実技Ⅱ

(レディース鍼灸)

鍼灸理学検査法

鍼灸診察法

スポーツ鍼灸

臨床実習Ⅱ



学校法人エイジエック学園

スポーツ健康医療専門学校

2022年度

[分野] 専門基礎

/人体の構造と機能

[授業科目]

生理学Ⅱ

2 学年

[基本情報]

担当教員	宮森 美香		単位数	3	時間数	60
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

生体を制御・調節する神経系、運動器系について学習することを目的とする。神経系による情報伝達や筋収縮、脳を含めた高次中枢の機能や身体運動の反射、特殊感覚を含めた感覚器系の仕組みについて理解を深める。

[評価方法]

定期試験 実技試験 実習評価 小テスト レポート その他(中間試験)

[教科書]

[参考書]

東洋療法学校協会編「生理学」

特になし

[履修の条件・留意点]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	第9章 生殖・成長と老化 (1)	16回	2.筋の収縮の仕組み、 3.筋のエネルギー供給の仕組み	講義
2回	第9章 生殖・成長と老化 (2)	17回	第12章骨格筋の神経支配	講義
3回	第9章 生殖・成長と老化 (3)	18回	1.骨格筋の神経支配	講義
4回	第9章 生殖・成長と老化 (4)	19回	2.運動の調節(1)	講義
5回	第9章 生殖・成長と老化 (5)	20回	2.運動の調節(2)	講義
6回	第9章 生殖・成長と老化 (6)	21回	2.運動の調節(3)	講義
7回	第10章 1.神経系とは 2.ニューロンの構造と働き	22回	2.運動の調節(4)	講義
8回	3.神経線維の興奮と伝導	23回	2.運動の調節(5)	講義
9回	4.興奮の伝達	24回	第13章 1.感覚の一般	講義
10回	5.末梢神経系、6.中枢神経系	25回	2.体性感覚	講義
11回	第10章 1.自律神経系の特徴	26回	3.内臓感覚 4.痛覚	講義
12回	2.自律神経系の神経伝達物質 と受容体	27回	5.特殊感覚(1)	講義
13回	3.自律神経系の中 4.自律神経反射	28回	5.特殊感覚(2)	講義
14回	第11章 1.骨格筋の構造と働き	29回	5.特殊感覚(3)	講義
15回	前期単位認定試験 解答・解説	30回	後期単位認定試験 解答・解説	試験/講義

2022年度

[分野] 専門基礎

/人体の構造と機能

[授業科目]

運動学

2 学年

[基本情報]

担当教員	石井 彩		単位数	1	時間数	30
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

運動学の用語を習得し、骨格筋の構造と機能を学習することにより、身体のメカニズムと運動の様相を理解する。また、運動学的知識に基づいた身体の使い方を表現できるようにする。

[評価方法]

定期試験 実技試験 実習評価 小テスト レポート その他(中間試験)

[教科書]

[参考書]

「運動学(東洋療法学校協会編)」

特になし

[履修の条件・留意点]

授業時にプリントを配布。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	運動路/感覚路(視覚器)	講義
2回	運動路/感覚路(視覚器)	講義
3回	運動路/感覚路(平衡聴覚器)	講義
4回	運動路/感覚路(平衡聴覚器)	講義
5回	運動路/感覚路(味覚器・嗅覚器)	講義
6回	運動学の基礎	講義
7回	姿勢とその異常 ・ 正常歩行と異常歩行	講義
8回	脊柱・体幹 の機能	講義
9回	肩甲帯・肩の機能	講義
10回	肘と前腕の機能	講義
11回	手と手指の機能	講義
12回	骨盤と股関節の機能	講義
13回	膝関節の機能	講義
14回	足の機能	講義
15回	単位試験/解答・解説	試験/講義

2022年度

[分野] 専門基礎

/ 疾病の成り立ちと予防及び回復促進

[授業科目]

衛生学Ⅱ

2 学年

[基本情報]

担当教員	石井 彩	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---

[授業目標]

健康に影響をおよぼす様々なリスクを同定し、予防活動に結びつける学問である。本講義では公衆衛生を基本として、衛生・公衆衛生学の理論、衛生行政、予防、健康、老人・成人保健、生活習慣病や難病疾患、産業衛生、母子保健、衛生統計などについて学習する。

[評価方法]

定期試験 実技試験 実習評価 小テスト レポート その他(中間試験)

[教科書]

「衛生学・公衆衛生学 第2版 (東洋療法学校協会編)」医歯薬出版 他

[参考書]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容

1回	第4章 環境と健康 (物理、化学、生物的環境要因)	11回	第8章 成人・高齢者保健 (三大生活習慣病)
2回	第4章 環境と健康 (公害、環境問題)	12回	第8章 成人・高齢者保健 (その他の生活習慣病)
3回	第5章 産業保健 (意義、関連法規)	13回	第9章 感染症 (意義、用語)
4回	第5章 産業保健 (労災、業務上疾病)	14回	第9章 感染症 (真菌、原虫、リケッチア、クラミジア)
5回	第6章 精神保健 (意義、特徴、分類)	15回	第9章 感染症 (細菌、ウイルス、感染症法)
6回	第6章 精神保健 (分類、入院・通院・デイケア)	16回	第9章 感染症 (検疫法、予防接種法)
7回	第7章 母子保健 (意義、各母子保健指標)	17回	第10章 消毒法 (定義、物理的消毒法)
8回	第7章 母子保健 (母体保護、少子化、政策)	18回	第10章 消毒法 (化学的消毒法)
9回	第8章 成人・高齢者保健 (各指標)	19回	第10章 消毒法 (消毒の実際、医療廃棄物)
10回	単位認定試験 解答・解説	20回	単位認定試験 解答・解説

2022 年度

[分野] 専門基礎

/ 疾病の成り立ちと予防及び回復促進

[授業科目]

リハビリテーション医学Ⅰ

2 学年

[基本情報]

担当教員	石井 彩		単位数	1	時間数	20
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゆう師の教員資格を有する。					
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---	

[授業目標]

は
・知識: 鍼灸師として必要活有益なリハビリテーションについて理解する。
・行動: 臨床の場でリハビリテーションの知識を活用できる。

[評価方法]

単位認定試験において 60 点以上を取ることを基本とし、授業の参加度も含めて評価し単位を認定する。

[教科書]

[参考書]

リハビリテーション医学 第 4 版	特になし
-------------------	------

[履修の条件・留意点]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	リハビリテーション医学の理念と方法	講義
2回	リハビリテーションの概要	講義
3回	医学リハビリテーションの概要1	講義
4回	医学リハビリテーションの概要2	講義
5回	医学リハビリテーションの概要3	講義
6回	障害の評価1	講義
7回	障害の評価2	講義
8回	医学的リハビリテーション1	講義
9回	医学的リハビリテーション2	講義
10回	単位試験/解答・解説	試験/講義

2022年度

[分野] 専門基礎

/ 疾病の成り立ちと予防及び回復促進

[授業科目]

病理学 I**2 学年**

[基本情報]

担当教員	前川 秀朗		単位数	4	時間数	80
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

各臓器に生じる病変は「循環障害」「代謝障害・退行性病変」「進行性病変」「炎症」「腫瘍」「免疫異常」「先天性異常」に分類することができるため、これらを知ることは、病気の本質を知る助けとなる。それらの分類において、特にはり師きゅう師に関係する必要な知識を修得することを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験において60点以上を基本とし、授業の参加度も含めて評価し単位を認定する。

[教科書]

[参考書]

教科書「病理学概論」、プリント資料

特になし

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	病理学概論について 免疫について	21回	慢性炎症の分類
2回	白血球と免疫反応分類	22回	腫瘍総論
3回	獲得免疫	23回	腫瘍の組織型
4回	急性炎症の概要	24回	良性腫瘍分類
5回	進行性病変(創傷治癒など)	25回	悪性腫瘍分類
6回	進行性病変(肥大など)	26回	腫瘍細胞の異型性
7回	退行性病変(萎縮など)	27回	悪性腫瘍の検査
8回	退行性病変(変性など)	28回	症候について
9回	循環障害(充血、うっ血)	29回	病因について
10回	循環障害(出血他)	30回	生活習慣病
11回	循環障害(血栓症他)	31回	免疫異常総論
12回	循環障害(塞栓症他)	32回	先天性免疫異常
13回	循環障害(梗塞他)	33回	後天性免疫異常
14回	循環障害(水腫、浮腫)	34回	アレルギー総論
15回	循環障害(ショック)	35回	アレルギー分類
16回	炎症総論	36回	I型アレルギーの仕組み
17回	急性炎症の形態	37回	II型アレルギーの仕組み
18回	急性炎症の分類	38回	III型アレルギーの仕組み
19回	単位試験/解答・解説	39回	IV型アレルギーの仕組み
20回	慢性炎症の形態	40回	単位試験/解答・解説

2022年度

[分野] 専門基礎

/ 疾病の成り立ちと予防及び回復促進

[授業科目]

臨床医学総論

2 学年

[基本情報]

担当教員	高野 弘仁	単位数	2	時間数	60
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師、柔道整復師の教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

診断学、症候学は西洋医学の基本である。本講義では、西洋医学における患者の問診から診察・検査そして診断に至る過程とその意義について学ぶ。はり師きゅう師として必要な知識を軸に、臨床現場の実際についても講義する。よって、資格者として必要な基礎知識の取得とともに、多様な臨床医学の特性を理解することにある。各人が目指す医療従事者としての将来の方向性が提示されることを到達目標とする。

[評価方法]

定期試験 実技試験 実習評価 小テスト レポート その他(中間試験)

[教科書]

東洋療法学校協会編 「臨床医学各論」、「臨床医学総論」

[参考書]

医学教育出版「病態生理できた内科学」

[履修の条件・留意点]

- ・臨床医学各論と重複する事が多い為、内容により省略したり話が何度も重複します。
- ・専門用語を覚えてもらう為に書く事が多くなります。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	診察について I. 全身の診察法 1. 顔 貌(1)	4/4
2回	I. 全身の診察法 1. 顔 貌(2) 2. 歩 行(1)	4/11
3回	2. 歩 行(2)	4/18
4回	3. 姿 勢と体 位	4/25
5回	4. 体 格 5. 体 型	5/9
6回	6. 栄 養 7. 皮 膚・粘 膜(1)	5/16
7回	7. 皮 膚・粘 膜(2) ※診察～栄養迄の確認(小テスト)	5/23
8回	7. 皮 膚・粘 膜(3)	5/30
9回	8. 体 温(1)	6/6
10回	8. 体 温(2) 9. 脈 拍(1)	6/13
11回	9. 脈 拍(2)	6/20
12回	10. 呼 吸	6/27
13回	11. 血 圧(1)	7/4
14回	11. 血 圧(2)	7/11
15回	単位試験(診察～血圧)/解答・解説	7/23
16回	II. 局所の診察法 1. 頭部、顔部、頸部の診察	7/25
17回	3. 口・舌・歯・咽頭・喉頭の診察	8/15
18回	4. 胸部の診察(1)	8/22
19回	4. 胸部の診察(2) 5. 腹部の診察(1)	8/29
20回	5. 腹部の診察(2) 6. 直腸・肛門の診察	9/5
21回	7. 四肢の診察(1)	9/12
22回	7. 四肢の診察(2) 8. 骨・関節の診察	9/15
23回	9. 神経の診察 ①精神意識 ②発声・会話(1)	9/22
24回	9. 神経の診察 ②発声会話(2) ③反射	9/26
25回	9. 神経の診察 ④運動機能検査	9/26
26回	9. 神経の診察 ⑤筋肉の検査(1)	9/29
27回	9. 神経の診察 ⑤筋肉の検査(2) ⑥知覚	10/6
28回	9. 神経の診察 ⑦脳神経の診察(1)	10/13
29回	9. 神経の診察 ⑦脳神経の診察(2)	10/20
30回	単位試験(顔の診察～神経の診察)/解答・解説	10/29

2022年度

[分野] 専門基礎

/ 疾病の成り立ちと予防及び回復促進

[授業科目]

臨床医学各論Ⅰ

2 学年

[基本情報]

担当教員	高野 弘仁		単位数	4	時間数	80
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師、柔道整復師の教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

内科系臨床鍼灸学では、鍼灸臨床にとって必要な主要症候のうち、内科系(便通異常、食欲不振、悪心・嘔吐、腹痛、胸痛・動悸、呼吸困難、肥満、血圧異常)の主要症候を取り上げ、それらの主要な原因疾患、症状の特徴、診察(鍼灸治療の適応か不適かの鑑別も含めて)および診察法、治療方針、鍼灸治療の方法について学習する。本講義では、内科系の主要症候について、適切な診察をすることができ、鍼灸治療の適否を判断した上で治療できることを到達目標とする。

[評価方法]

定期試験 実技試験 実習評価 小テスト レポート その他(中間試験)

[教科書]

東洋療法学校協会編「臨床医学各論」、「臨床医学総論」

[参考書]

医学教育出版「病態生理できた内科学」

[履修の条件・留意点]

・教科書に沿ってまとめたプリントを中心に授業を進めるので各自で必ずファイルを用意すること。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	消化器疾患（消化器疾患総論）	講義
2回	消化器疾患（口腔・食道疾患）	講義
3回	消化器疾患（胃疾患）	講義
4回	消化器疾患（腸疾患）	講義
5回	消化器疾患（消化器疾患まとめ）	講義
6回	肝・胆・膵疾患（肝臓疾患）	講義
7回	肝・胆・膵疾患（胆嚢疾患）	講義
8回	肝・胆・膵疾患（膵臓疾患）	講義
9回	呼吸器疾患（感染性呼吸器疾患）	講義
10回	呼吸器疾患（閉塞性呼吸器疾患）	講義
11回	呼吸器疾患（拘束性呼吸器疾患）	講義
12回	呼吸器疾患（その他の呼吸器疾患）	講義
13回	腎・尿路疾患（原発性糸球体腎炎）	講義
14回	腎・尿路疾患（腎不全・感染症）	講義
15回	腎・尿路疾患（腫瘍性疾患・結石症）	講義
16回	腎・尿路疾患（前立腺疾患）	講義
17回	代謝栄養疾患（糖代謝異常・脂質代謝異常）	講義
18回	代謝栄養疾患（脂質代謝異常・尿酸代謝異常）	講義
19回	代謝栄養疾患（その他の代謝異常症）	講義
20回	前期単位試験/解答・解説	試験/講義
21回	内分泌疾患（下垂体疾患）	講義
22回	内分泌疾患（甲状腺疾患）	講義
23回	内分泌疾患（副腎疾患）	講義
24回	整形外科疾患（総論・関節疾患）	講義
25回	整形外科疾患（骨代謝性疾患・骨腫瘍）	講義
26回	整形外科疾患（筋・腱疾患）	講義
27回	整形外科疾患（形態異常）	講義
28回	整形外科疾患（脊椎疾患）	講義
29回	整形外科疾患（脊髄損傷）	講義
30回	整形外科疾患（外傷）	講義
31回	整形外科疾患（外傷）	講義
32回	整形外科疾患（その他の整形外科疾患）	講義
33回	循環器疾患（心臓疾患）	講義
34回	循環器疾患（心臓疾患）	講義
35回	循環器疾患（心臓疾患）	講義
36回	循環器疾患（冠動脈疾患）	講義
37回	循環器疾患（動脈疾患）	講義
38回	循環器疾患（動脈疾患）	講義
39回	循環器疾患（血圧異常）	講義
40回	後期単位試験/解答・解説	試験/講義

2022年度

[分野] 専門

/ 基礎はり学 基礎きゅう学

[授業科目]

鍼灸理論 I**2 学年**

[基本情報]

担当教員	前川 秀朗		単位数	3	時間数	60
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

はじめに、鍼と灸について、それらの用具、術式などを理解する。次に、鍼灸刺激に関係する感覚や、鍼灸臨床で遭遇することが多い「痛み」について、それらのしくみを学ぶ。そして鍼灸刺激によってみられることがある副作用と感染症についても理解する。3年次に学ぶ「鍼灸理論Ⅱ」とをあわせて、鍼灸臨床に必要な知識とはり師きゅう師に必要な知識を修得することを目標とする。

[評価方法]

定期試験 実技試験 実習評価 小テスト レポート その他(中間試験)

[教科書]

[参考書]

プリント資料、教科書「はりきゅう理論」

特になし

[履修の条件・留意点]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	基礎① 古代九鍼、毫鍼	16回	前期単位認定試験 解答・解説	試験/講義
2回	基礎② 刺鍼の方式と鍼尖形状	17回	鍼刺激と反射の仕組み	講義
3回	基礎③ 刺鍼の術式	18回	鍼鎮痛の仕組み	講義
4回	基礎④ その他	19回	鍼鎮痛の種類	講義
5回	灸の材料と特徴	20回	鍼鎮痛の応用	講義
6回	灸術の種類	21回	リスク管理	講義
7回	体性感覚総論	22回	特殊鍼法(小児鍼などについて)	講義
8回	体性感覚触覚	23回	特殊鍼法(鍼通電などについて)	講義
9回	体性感覚痛覚	24回	特殊鍼法(耳鍼などについて)	講義
10回	体性感覚温度覚	25回	鍼灸施術の治療的作用・治効理論	講義
11回	その他の感覚	26回	関連学説	講義
12回	痛み総論	27回	ストレス反応	講義
13回	急性痛	28回	鍼灸医療事故訴訟	講義
14回	慢性痛の種類	29回	鍼灸医療事故訴訟と対策	講義
15回	慢性痛の仕組み	30回	後期単位認定試験 解答・解説	試験/講義

担当教員	秋葉 裕子	単位数	1	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

主な経穴の穴性(性質)と、主な経穴に関わる筋・神経を学習し理解する。

出欠席、小テスト、単位認定試験にて評価する。

小テストは計2回実施し、評価全体の20%とする。

「東洋医学概論」、「経絡経穴概論」

授業のなかで、その都度紹介する。

授業時にプリントを配布するため、欠席時は次回授業時に担当講師から受領すること。

授業計画 ;回数/講義内容

1回	ガイダンス・穴性の位置づけ	11回	西医的穴性 [手太陰肺経・手陽明大腸経]
2回	治法とその活用法	12回	西医的穴性 [足陽明胃経・足太陰脾経]
3回	東医的穴性[気血津液弁証]	13回	西医的穴性 [手少陰心経・手太陽小腸経]
4回	東医的穴性[気血津液弁証]	14回	西医的穴性 [足太陽膀胱経・足少陰腎経]
5回	東医的穴性[臓腑弁証 (肝・胆)]	15回	西医的穴性 [手厥陰心包経・手少陽三焦経]
6回	東医的穴性[臓腑弁証 (心・小腸)]	16回	西医的穴性 [足少陽胆経・足厥陰肝経]
7回	東医的穴性[臓腑弁証 (脾・胃)]	17回	西医的穴性 [任脈・督脈]
8回	東医的穴性[臓腑弁証 (肺・大腸)]	18回	西医的穴性 [総括①]
9回	東医的穴性[臓腑弁証 (腎・膀胱)]	19回	西医的穴性 [総括②]
10回	東医的穴性 [総括]	20回	単位認定試験 解答・解説

2022年度

[分野] 専門

/ 臨床はり学 臨床きゅう学

[授業科目]

あはきの適応の判断

病態生理学
も含む

2 学年

[基本情報]

担当教員	森 大和		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。					
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---	

[授業目標]

様々な疾患に対し、西洋医学的に判断、鑑別できるようになる。また、病態生理を理解する事で患者に病態を適切に説明出来るだけでなく、あはきの適応範囲を知る事でリスク管理が出来るようになる事が本授業の目標である。

[評価方法]

単位認定試験において60点以上を取ることを基本に授業の参加度なども参考に総合評価により単位取得とする。

[教科書]

臨床家のための基礎からわかる病態生理学;毎授業ごとにプリントを配布する。

[参考書]

臨床医学総論、臨床医学各論、よくわかる痛み・鎮痛の基本としくみ

[履修の条件・留意点]

授業時にプリントを配布するため、欠席時は次回授業時に担当講師から受領すること。

授業計画 ;回数/講義内容

1回	疼 痛	11回	食欲不振
2回	疼 痛・痛みの治療	12回	高齢者
3回	腰下肢痛	13回	高齢者
4回	腰下肢痛	14回	小 児
5回	頭 痛	15回	婦人科疾患
6回	頭 痛・胸 痛	16回	婦人科疾患
7回	胸 痛	17回	癌と鍼灸
8回	便 秘	18回	肥 満
9回	下 痢	19回	肥 満・糖尿病
10回	浮 腫	20回	単位認定試験 解答・解説

2022年度

[分野] 専門

/ 臨床はり学 臨床きゅう学

[授業科目]

東洋医学臨床論Ⅰ**2 学年**

[基本情報]

担当教員	長谷川 聡		単位数	4	時間数	80
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

東洋医学概論で学んだ知識を生かし、証候別・ストレスによってどのような状態があるのか理解すると同時に、どのように治療方針を立て、治療を行っていくかを学んでいく。3年次の臨床実習にむけて、東洋医学的な診断と治療を行えるための基礎になるために、授業時間においては、症例トレーニングなども行うことにより、患者の病態生理と治療が出来るようにすることを目標とする。

[評価方法]

東洋医学臨床論

[教科書]

東洋療法学校協会編「臨床医学各論」、「臨床医学総論」

[参考書]

針灸学基礎篇・臨床篇、経穴篇、中医内科学、他は随時紹介していく。

[履修の条件・留意点]

・教科書に沿ってまとめたプリントを中心に授業を進めるので各自で必ずファイルを用意すること。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	東医臨基礎	講義
2回	頭痛の病態生理と治療	講義
3回	顔面痛	講義
4回	顔面神経麻痺の病態生理と治療	講義
5回	歯痛	講義
6回	眼精疲労	講義
7回	鼻閉・鼻汁	講義
8回	脱毛症	講義
9回	めまい	講義
10回	耳鳴の病態生理と治療	講義
11回	咳嗽	講義
12回	喘息	講義
13回	胸痛	講義
14回	腹痛	講義
15回	悪心・嘔吐	講義
16回	便秘と下痢	講義
17回	便秘と下痢	講義
18回	月経異常	講義
19回	月経異常	講義
20回	前期単位試験/解答・解説	試験/講義
21回	排尿障害	講義
22回	勃起障害	講義
23回	肩 upper limb 疾患	講義
24回	肩 upper limb 疾患	講義
25回	腰 lower limb 疾患	講義
26回	腰 lower limb 疾患	講義
27回	血圧（高血圧・低血圧）の病態生理と治療	講義
28回	食欲不振	講義
29回	肥満	講義
30回	発熱	講義
31回	のぼせと冷え	講義
32回	不眠	講義
33回	疲労と倦怠	講義
34回	発疹	講義
35回	小児	講義
36回	スポーツ	講義
37回	スポーツ	講義
38回	老年医学	講義
39回	老年医学	講義
40回	後期単位試験/解答・解説	試験/講義

2022年度

[分野] 専門 / 実習

[授業科目]

東洋医学 はり・きゅう実技Ⅰ

2 学年

[基本情報]

担当教員	原 オサム	単位数	2	時間数	60
実務/資格	豊富な臨床経験鍼を持つ鍼灸院院長が指導、積聚会会長/はり師きゅう師の教員資格を有する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

一年次の基礎実技をベースに、さらに東洋的な考えに基づく鍼灸治療を、腹診・背候診を中心に理解・修得する。

[評価方法]

①実技テスト ②筆記テスト ③出欠席状況 ④授業態度・参加意欲等による総合評価とする。

[教科書]

はりきゅう実技〈基礎編〉(医道の日本社)

[参考書]

『難経』(各出版社)、『東洋医学講座』第1巻、第10巻(緑書房)
、『カラーアトラス取穴法』(医歯薬出版)

[履修の条件・留意点]

毎回の授業ごとに内容・解説が変わります。
遅刻・欠席があると授業の理解、修得が困難になりがちです。準備・復習と体調管理に注意して、休まず出席すること。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス・オリエンテーション	実習
2回	東洋医学原論（東洋医学とは）	実習
3回	脈診（原穴のみ）、腹部接触診（1）	実習
4回	脈診（原穴のみ）、腹部接触診（2）	実習
5回	『難経』55難・52難	実習
6回	『難経』56難・16難	実習
7回	『難経』 もしくは 腹診入門	実習
8回	腹部の取穴・五臓区分（1）	実習
9回	腹部の取穴・五臓区分（2）	実習
10回	腹診の方法（1）	実習
11回	腹診の方法（2）	実習
12回	背部俞穴の取穴・五行区分（1）	実習
13回	背部俞穴の取穴・五行区分（2）	実習
14回	背部俞穴の取穴・五行区分（3）	実習
15回	腹診と背部施術（1）	実習
16回	腹診と背部施術（2）	実習
17回	腹部・背部取穴確認ペーパーテスト、腹診と治療	実習
18回	腹診と治療	実習
19回	鍼実技まとめ	試験/実習
20回	灸実技まとめ	試験/実習
21回	実技まとめ講評	実習
22回	腹診と治療（1）	実習
23回	腹診と治療（2）	実習
24回	腹診と治療（3）	実習
25回	腹診と治療（カルテ記入）1	実習
26回	腹診と治療（カルテ記入）2	実習
27回	腹診と治療（補助治療）1	実習
28回	腹診と治療（補助治療）2	実習
29回	腹診と治療（補助治療）3	実習
30回	腹診と治療（補助治療）4	実習

2022 年度

[分 野] 専 門 / 実 習

[授業科目]

現代医学 はり・きゅう実技

2 学年

[基本情報]

担当教員	篠原 大侑		単位数	2	時間数	90
実務/資格	大学病院での豊富な臨床経験を持つ、はり師きゅう師の資格を有する講師が指導する。					
開講学期	前 期	後 期	授業形態	---	実 習	

[授業目標]

東洋医学臨床論の西洋医学的な考え方に基づく鍼灸治療の理論と実際を理解する。特に整形疾患ではペインコントロールをはじめ理学的検査法による鑑別法や鍼灸治療の適否などを判断できる知識と治療技術を習得する。また、同時にストレスフリー療法を応用した治療法について理解する。さらに、経絡経穴に一致する神経痛などの神経症状を理解するとともに神経走行に対する刺鍼点(神経ブロック鍼療法)を習得する。

[評価方法]

後期単位認定試験および実技試験により評価する。

[教科書]

東洋医学臨床論(はりきゅう編)医道の日本社 神経ブロック鍼療法 医歯薬出版

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1 回	ガイダンス	実習
2 回	現代鍼灸臨床の考え方	実習
3 回	鍼鎮痛理論(全身性疼痛・脊髄分節性鎮痛)	実習
4 回	低周波鍼通電療法の基礎知識	実習
5 回	頭 痛	実習
6 回	顔面痛	実習
7 回	顔面神経麻痺	実習
8 回	歯 痛	実習
9 回	眼精疲労	実習
10 回	鼻閉・鼻汁・脱毛症	実習
11 回	めまい・耳鳴・難聴	実習
12 回	咳嗽・喘息	実習
13 回	胸 痛	実習

14回	腹痛	実習
15回	悪心・嘔吐	実習
16回	便秘・下痢	実習
17回	月経異常	実習
18回	排尿障害・ED（勃起障害）	実習
19回	安全な鍼灸刺激の確認	実習
20回	前半実技試験	実習
21回	頸肩腕痛	実習
22回	頸肩腕痛	実習
23回	肩凝り	実習
24回	肩関節痛	実習
25回	上肢痛	実習
26回	腰痛	実習
27回	腰下肢痛	実習
28回	腰下肢痛	実習
29回	下肢痛	実習
30回	膝痛	実習
31回	運動麻痺	実習
32回	高血圧症と低血圧症	実習
33回	食欲不振・肥満	実習
34回	発熱・のぼせと冷え	実習
35回	不眠・疲労と倦怠	実習
36回	発疹・小児の症状	実習
37回	スポーツ医学・法老年医学における鍼灸療法	実習
38回	気分障害	実習
39回	筋パルス	実習
40回	筋パルス	実習
41回	後半まとめと頸肩腕痛	実習
42回	後半まとめと腰下肢痛	実習
43回	安全な鍼灸刺激の再確認	実習
44回	後半まとめと解説	実習
45回	全体まとめと解説	試験/実習

2022年度

[分野] 専門

/ 実習

[授業科目]

はりきゅう応用実技Ⅱ

— レディース鍼灸 —

2 学年

[基本情報]

担当教員	秋葉 裕子		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。					
開講学期	---	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

穴性をもとに、それぞれの疾患に対して処方を考え、深度・角度等を考えながら、処方に合わせて刺入できる技術を学習する。また、灸についても同様に病態に合わせた様々な灸法を学習する。

[評価方法]

出欠席、実技試験にて評価する。

[教科書]

「東洋医学概論」、「経絡経穴概論」、「東洋医学臨床論」

[参考書]

授業中に紹介する。

[履修の条件・留意点]

授業時にプリントを配布するため、欠席の場合は次回授業時に担当講師から受領すること。

授業計画 ;回数/講義内容

1回	ガイダンス・中国鍼① [刺入方法]	11回	ライフサイクル鍼灸 [血管運動神経系②]
2回	中国鍼② [得気・催気法]	12回	ライフサイクル鍼灸 [消化器系]
3回	中国鍼③ [補瀉手技]	13回	ライフサイクル鍼灸 [運動器系①]
4回	ライフサイクル鍼灸 [月経①]	14回	ライフサイクル鍼灸 [運動器系②]
5回	ライフサイクル鍼灸 [月経②]	15回	ライフサイクル鍼灸 [泌尿器系]
6回	ライフサイクル鍼灸 [妊娠出産①]	16回	ライフサイクル鍼灸 [生殖器系]
7回	ライフサイクル鍼灸 [妊娠出産②]	17回	ライフサイクル鍼灸 [皮膚分泌系]
8回	ライフサイクル鍼灸 [妊娠出産③]	18回	美容鍼①
9回	ライフサイクル鍼灸 [精神神経系]	19回	美容鍼②
10回	ライフサイクル鍼灸 [血管運動神経系①]	20回	単位認定試験 総評

2022年度

[分野] 専門

/実習

[授業科目]

鍼灸理学検査法**2 学年**

[基本情報]

担当教員	岡野 亜希子	単位数	1	時間数	30
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習

[授業目標]

鍼灸治療で行われる基本的な理学検査法(頸・肩・肘・手・腰・膝について)の知識と技術を修得することができる。さらに、各検査法を使って鑑別できる疾患を理解することができる。

[評価方法]

出席状況、試験によって総合的に評価する。

[教科書]

[参考書]

臨床医学各論、臨床医学総論、東洋医学臨床論

随時紹介

[履修の条件・留意点]

授業時にプリントを配布。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス、理学検査について、血圧について	実習
2回	頸椎の疾患について	実習
3回	頸椎 理学検査	実習
4回	肩関節の疾患について	実習
5回	肩関節 理学検査	実習
6回	肘・手関節の疾患について	実習
7回	肘・手関節 理学検査	実習
8回	頸椎～肘・手関節の復習	実習
9回	腰の疾患について	実習
10回	腰 理学検査	実習
11回	膝の疾患について	実習
12回	膝の理学検査	実習
13回	総復習	実習
14回	鑑別について	実習
15回	単位試験/総評	試験/講義

担当教員	岡野 亜希子		単位数	1	時間数	30
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	---	実習	

医療面接における基本的な技法と診療録の書き方を学び、鍼灸臨床において役立つ技術と知識を修得することを目標とする。

実技試験において60点以上を取ることを基本とし、授業の参加度も含めて評価し単位を認定する。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス・鍼灸診察法概要	実習
2回	医療面接の役割	実習
3回	医療面接の実際	実習
4回	医療面接のチェックリスト	実習
5回	医療面接の終了	実習
6回	診療録について	実習
7回	リスク管理について	実習
8回	患者指導について	実習
9回	医療面接実技（模擬患者1・2）	実習
10回	医療面接実技（模擬患者3・4）	実習
11回	医療面接実技（模擬患者5・6）	実習
12回	医療面接実技（模擬患者7・8）	実習
13回	医療面接実技（模擬患者9・10）	実習
14回	実技まとめと解説	実習
15回	筆記まとめと解説	試験/講義

2022年度

[分野] 専門

/実習

[授業科目]

スポーツ鍼灸

2 学年

[基本情報]

担当教員	前川 秀朗		単位数	1	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。					
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習	

[授業目標]

様々な鍼灸治療法のうち比較的短時間で体の変化があらわれ、その変化を施術者、患者とも確認することができ、他の治療法とも併用できる治療法を学び、鍼灸臨床において役立つ技術と知識を修得することを目標とする。

[評価方法]

実技試験において60点以上を取ることを基本とし、授業の参加度も含めて評価し単位を認定する。

[教科書]

[参考書]

プリント資料

随時紹介

授業計画 ;回数/講義内容

1回	治療法総論	11回	胤径部診断による治療法
2回	東洋医学による身体の評価	12回	背部への治療法
3回	東洋医学による診断方法	13回	側腹部診断による治療法
4回	現代医学による身体の評価	14回	腹部診断による治療法
5回	現代医学的による診断方法	15回	肩部診断による治療法
6回	上腹部診断による治療法	16回	肩甲骨周囲筋の治療法
7回	頸部診断による治療法	17回	下腿の治療法
8回	胸部診断による治療法	18回	ケガ（瘢痕組織）の治療法
9回	季肋部診断による治療法	19回	頭部の治療法
10回	後頸部診断による治療法	20回	単位認定試験 解答・解説

[基本情報]

実習調整者	松澤 孝司 宮森 美香		単位数	1	時間数	45
開講学期	前期	後期	授業形態	---		実習

[授業目標]

- ・形態の違う実際の治療院で実習を通じて、自身が考える治療院について考えることができる。
- ・授業で学習していることが、実際にどのように効率よく用いられているかを体感することで、今後の授業への取り組み方に結び付けることができる。

[評価方法]

実習への取り組み状況によって総合的に評価する。

[履修の条件・留意点]

- ・各施術所の臨床実習指導者の指示に従うこと。
- ・日程の詳細はその都度施術所と相談して決める。通常時間外となるので注意すること。
- ・各期間における施術所はできるだけ違う所とする。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	附属鍼灸院実習	4月-5月 (4.5時間)
2回	第1期 外部施術所/治療院 臨床実習	6月 (4.5時間)
3回		
4回	第2期 外部施術所/治療院 臨床実習	8月 (4.5時間)
5回		
6回		
7回	第3期 外部施術所/治療院 臨床実習	11-12月 (4.5時間)
8回		
9回		
10回		